令和８年度牛久保小学校　**校長室だより**

第７号
令和８年９月１４日

☆3年生　落語アウトリーチ（三遊亭らっ好さんを迎えて）

９月 11 日（金）に３年生対象に三遊亭らっ好さんを迎えて「落語アウトリーチ」を行いました。今回牛久保小でお迎えした三遊亭らっ好さんは、豊川市でのアウトリーチは今回が初めてですが、学校寄席の経験は豊富で、人前で話す時のコツや楽しさなどを子どもたちに伝えている方です。



- 出身地：長崎県佐世保市
- 階級：二ツ目
- 芸歴　２０１３年 三遊亭好太郎に入門
　　２０１６年 二ツ目昇進
　　２０２７年 真打昇進が決定

３時間目、音楽とともに登場した三遊亭らっ好さんのお話の初めは、手ぬぐいや扇子の使い方で多様な表現が可能だという話でした。手ぬぐいが、マンガになったり教科書になったりと、手ぬぐいの形や顔の表情でどんな本を読んでいるかが、伝わってきます。



また扇子もはしになったり筆になったり、または刀になったりと、その目線や手の動きによって伝わってきます。また、はしで麺を持ち上げすする時には、麺の太さによって音を使い分けている工夫なども話してくれました。

最初の落語は「みそまめ」でした。子どもたちは、らっ好さんの話に引き込まれ、みそ豆を食べている様子に感心し、定吉と旦那のかけあいに大笑いでした。

その後は、子どもが扇子による表現に挑戦しました。ラーメンやうどんの食べ方に挑戦し、麺を持ち上げる時の視線や麺を吸い込むときの音を上手に表現できました。

最後の落語は「つる」でした。らっ好さんの抑揚ある言葉遣いや主人公の言葉の言い間違いに子どもは大喜びで、床に寝転がって大笑いする子もいました。

最後は質問コーナーです。「落語をやっていて楽しいことは」「いつから落語の道を選んだのか」など、らっ好さんから感じた思いをきちんと質問していました。子どもにとって落語というものを初めて知る貴重な時間となりました。三遊亭らっ好さん、ありがとうございました。

古典落語演目「みそ豆」
主人と丁稚が互いにみそ豆のつまみ食いをしあって、隠れようとするが、最後は便所で鉢合わせてしまう話

古典落語演目「つる」
鶴の名前の由来をでたらめに教えられた男が知人にそれを伝えようとするが、言葉を間違えて、うまく伝えられない滑稽さがある話